



### 学校給食週間とは？

学校給食の長い歴史をふり返り、学校給食の意義や役割について理解や関心を深め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的としています。  
終戦後昭和21年12月24日に学校給食が始まったことから、この日を「学校給食記念日」としましたが、冬休みに入ってしまうため、1か月後の1月24日を「記念日」とし、この1週間を「学校給食週間」とすることが決まりました。この機会に食べ物に感謝したり、私たちの食生活も見つめ直してみましょう。

### 学校給食の歴史

明治22年

山形県鶴岡町(現 鶴岡市)の忠愛小学校で、お弁当を持ってこることが出来ない子ども達のために「おにぎり・焼き魚・菜っ葉の漬物」の昼食を出したのが始まりとされている。  
そして、明治40年以降から、広島や秋田、静岡など徐々に日本全国に給食が広がっていく。



1889年(明治22年)  
おにぎり、しおぎ、つけもの

昭和7年

国の補助による学校給食が実施される。  
このころの給食は、貧困児童の救済が目的。



1942年(昭和17年)  
すいとんのみそ汁

昭和19年

戦争が激しさを増してくると、給食どころか家庭でも食べるものに困ようになり、学校給食は中止になった。

昭和21年

文部・厚生・農林の3省が、戦後の新しい学校給食の方針を打ち出す。  
ララ(アジア救済公認団体)物資の脱脂粉乳や缶詰により、12月24日に学校給食が再開される。



1955年(昭和30年)  
コッペパン、牛乳、鱈のフライ、  
サラダ、ジャム

昭和29年

学校給食の目的などを定めた  
"学校給食法"が制定される。

平成17年

食育基本法が制定される。



### 三田の学校給食の歴史

昭和32年

藍小学校で、三田市最初の学校給食が始まる。

昭和44年

脱脂粉乳のミルクから、ビン入り牛乳にかわる。

昭和51年

米飯給食を月1回～2回実施。

昭和58年

ふるさと献立を実施 米飯給食を週2回実施。

平成 2年

アルマイトからポリプロ食器にかわる。

平成 4年

ふるさと給食事業により、三田米・地場野菜導入。

平成 7年

阪神・淡路大震災に際し、2週間給食を中止し、給食センターで"おにぎりと豚汁"の炊き出しを行う。

平成12年

米飯給食を週3回実施。

平成18年

米飯給食を週4回実施。

平成22年

「三田肉を食べチャオ献立」を、年に3回実施(市の補助事業)する。

平成23年

牛乳ビンが紙パックにかわる。

平成25年

ポリプロ食器からABS樹脂食器にかわる。

平成26年

ラッピングトラックが始まる。

(絵手紙コンクールの優秀賞に選ばれた絵手紙を使用)

平成27年

和食の日として、牛乳の代わりに母子茶を月1回使用。



<開始当初の調理の様子>



<ラッピングトラック>

### 三田の給食はどんな給食？

#### 給食献立の3本柱

健康と安全

食文化の伝承  
ふるさとづくり

献立を  
生きた教材に

- ・不足しがちな食品、栄養素の補給
- ・新鮮で安全な食品の購入
- ・衛生面を考慮した献立の工夫

- ・自然のだし
- ・地場野菜の活用
- ・日本の郷土食
- ・世界の料理

- ・給食の時間だけでなく、学級活動、総合的な学習の時間などで、給食を教材に活用



### 学校給食の役割

学校給食  
開始当時



子どもたちの  
栄養補給  
(昭和21年頃)



人間関係の形成  
マナーの体得  
(昭和29年頃)



食育の「生きた教材」へ  
(平成17年頃)

現在

学校給食開始当時は、あまり食べ物がなく、子どもたちの栄養補給が第1の目的でしたが、時代の変化とともに学校給食の役割も変化してきました。今日の学校給食は、食育の「生きた教材」としての大切な役割も担っています。

お知らせ

### 三田の学校給食展

期間：平成29年1月23日～30日(学校給食週間中)

場所：フラワータウン市民センター

テーマ：「三田の学校給食 今・昔

～ふるさと三田の給食について学ぶ～」

三田市学校給食の始まりの様子や、三田の給食の歴史を紹介していますので、ぜひお立ち寄りください。



